

○ 現行制度の改善又は拡充を求めるもの

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 再提案 (. . . 第 回総会 ; 市)		
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 現行制度の改善又は拡充を求めるもの <input type="checkbox"/> 新たな施策の要望又は提案を求めるもの <input type="checkbox"/> 特に市町村への財政支援策等を求めるもの <input type="checkbox"/> その他 ()	分野	<input checked="" type="checkbox"/> 総務文教 <input type="checkbox"/> 社会環境 <input type="checkbox"/> 経済 <input type="checkbox"/> 危機管理建設
要望先	<input type="checkbox"/> 国	担当省庁	
	<input checked="" type="checkbox"/> 県	担当部局	教育委員会事務局
	<input type="checkbox"/> その他	名称	
件名	11 特別支援教育充実に向けた原籍校と副学籍校をつなぐ人材配置について		
提案市	安曇野市		
提案要旨	副学籍（副次的な学籍）制度の運用に関わり、特別支援学校に在籍する児童生徒と、副学籍校である居住地の小・中学校の児童生徒の交流及び共同学習の充実を図るため、コーディネート役となる人材の配置を要望する。		
提案理由	<p>本年3月に策定された「第三次長野県教育振興基本計画」では、特別支援教育の充実を重要な施策と位置づけ、インクルーシブな教育を推進するため、特別支援学校に在籍する児童生徒の副次的な学籍による取組についての周知・啓発を進めることが明記されている。</p> <p>本市がこの4月よりスタートさせた副学籍制度を活用して、交流及び共同学習をより充実させるためには、特別支援学校に在籍する児童生徒の個別の指導計画の中に、交流や共同学習を積極的に位置づけることが重要である。今後の副学籍の希望者の増加も視野に入れ、各自治体の副学籍校（拠点校）にコーディネート役を担う人材を配置していただく人的支援が必要である。</p>		
現況及び課題等	<p>本市でも、特別支援教育の充実を重点施策の一つとして取り組んでおり、厳しい財政状況の中、市内17小中学校に本年度64人の加配教員を配置し、特別な支援等を要する児童生徒への支援に努めているところである。</p> <p>さらに、現在、安曇野市在住で県内の特別支援学校の小学校部・中学校部に在籍する児童・生徒56名も安曇野の未来を担う宝であり、副学籍制度を活用している11名（安曇養護学校9名、松本ろう学校2名）の新たな一歩を支援し温かく見守りたい。</p> <p>本市の副学籍制度は、学校卒業後も地域や仲間との温かなつながりを持ち続け、認めあって暮らせる社会の形成を目指すものである。この実現に向けて交流及び共同学習の充実を図るには、原籍校と副学籍校との連携が欠かせないが、その役割は当該校の教頭が中心となって担っており、業務量が過重となっているため、コーディネートする業務を担う人材を副学籍校に配置することが是非とも必要である。</p>		
法令関係	学校教育法 障害者総合支援法 (第三次長野県教育振興基本計画)		